

ユビキタス情報基盤構築による
震災復興・スマートシティ特別研究委員会
活動報告

2014年3月18日

本委員会委員

委員長：坂村健（東京大学） 委員：宇野求（東京理科大学）
小林正美（明治大学）
幹事：野城智也（東京大学） 小池博（明治大学）
西本賢二（東京大学） 坂下裕明（パスコ）
浜田耕史（大林組） 新宮清志（日本大学）
松永直美（レモン画翠） 庄司寛（庄司寛建築設計事務所）
倉田成人（鹿島建設） 高瀬大樹（清水建設）
谷明勲（神戸大学）
長澤夏子（早稲田大学）
矢吹信喜（大阪大学）
米澤 昭（ベターリビング）
渡辺仁史（早稲田大学）

テーマ

- ユビキタス情報基盤を構築し、計画、生産、構造、環境における情報の連携利用により実現するスマートシティや震災復興のビジョンを分野横断で研究する

研究の背景

- 情報を収集し利用するために、スマートフォン、RFID、センサネットワーク等のユビキタス技術やデバイスの開発が急進的に進められるとともに、クラウドサービスが普及しつつある
- こうしたユビキタス情報基盤を応用して、建築・都市の計画、生産、構造、環境の各分野においては、様々な情報が扱われているが、分野ごとの適用にとどまっている
- 次世代建築・都市としてのスマートシティや、震災復興の実現にあたっては、各分野での情報の連携利用は必須と考えられる
- しかし、ユビキタス情報基盤による情報連携のあり方やビジョンの構築はこれからである

研究目的

- 本委員会では、各分野でのユビキタス情報基盤の効果的な応用と、情報連携のあり方について研究し、スマートシティや、震災復興の実現に向けたビジョンを作成する

研究項目

1. 計画、生産、構造、環境の各分野において扱われる情報の連携のあり方
 - (1) 各分野で扱われる情報と、情報通信技術の応用事例の整理
 - (2) 情報を連携利用することによる効用と利益の整理
2. ユビキタス情報基盤によるスマートシティと震災復興に向けたビジョン
 - (1) ユビキタス情報基盤の研究
 - RFID、センサ、携帯端末、技術のあり方、センサの設置方法
 - (2) スマートシティ、震災復興に向けた情報連携のあり方
 - スマートシティ関連の勉強会・見学会、スマートシティ・震災復興に焦点を当てた情報連携のあり方

小委員会の設置

- ①スマートシティ情報連携小委員会（主査：大阪大学 矢吹教授）
 - ・スマートシティに焦点を当て、情報連携のあり方について研究

- ②震災復興スマートシティ小委員会（主査：東京理科大学 宇野教授）
 - ・震災復興の有力な方策としてのスマートシティと、そこでの情報と発信のあり方について研究

- ③ユビキタス情報基盤小委員会（主査：鹿島建設 倉田）
 - ・RFID、センサネットワーク、携帯端末、クラウドサービスなど、ユビキタス情報基盤のあり方について研究

成果

- 2013年度日本建築学会大会にて下記のパネルディスカッションを開催
 - ユビキタス情報基盤構築による災害に強いスマートシティ
 - ICTを利用した国土強靱化と医療情報に関する専門家を招き、本委員会での研究と東日本大震災を踏まえながら、復興とスマートシティのあり方について討論
- 報告書の作成